

つっかいぼう通信 第68号

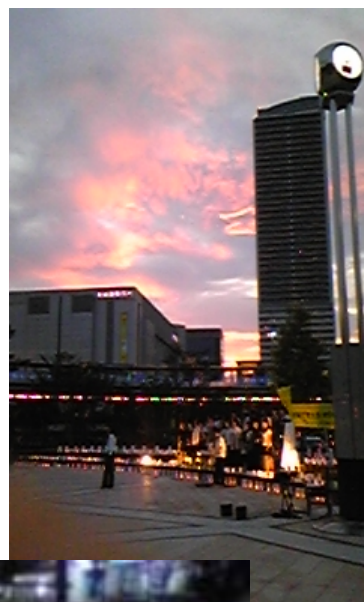
編集／特定非営利活動法人障害者自立センターつっかいぼう

〒502-0843 岐阜市早田東町8丁目4番1 パセール長良1F3号

Tel 058-215-7374 / Fax 058-296-5343

発行／2010年10月15日

去る9月12日、「認定NPO岐阜いのちの電話」主催の「自殺予防講演会」が行われ、夕方よりJR岐阜駅前広場にて昨年岐阜県内で自殺された533名の方を追悼するイベントが行われました。イベントには私たちの作業所「ロウソク工房ヴェリエーション」キャンドルを使って下さいました。地元での大切なイベントに声をかけて戴けて感謝しています。けれども533本ものキャンドルはあまりにも悲しいですね。私も何人かの友人を自殺と言う形で失っています。何時思い出しても、何もできなかった申し訳なさ自分への後悔、何故という問いかけ、どれだけ辛かったかという思いだけが巡り続けます。残念ながら講演会には行けませんでした、取り組んでいかなければと思います。(吉田)



作業所新設

2010年10月現在

新しい作業所を建設する場所が決定しました。

岐阜市古市場です。黒野小学校プールの道路を挟んで真北、少し古い住宅街の真ん中です。夏はきっと子供たちの声が賑やかでしょう。

約300坪の広さがありますが、これまでの場所からは大きく北の方に離れます。

作業所の広さ、駐車場、交通の便、価格、今の通ってくる人たちの住んでいる場所や営業してきた地域等様々な条件があり、優先順位が付け難くなかなか決まりませんでした。

何度も話し合いをしながら、「安全が確保できる一階建てである事」と営業上「周囲に人が多い事と立ち寄りやすさ」を考えました。(営業上・・・は正しいかどうか不明な所もありますが)、遠くなり自分で通所出来なくなる方は送迎でカバーする予定です。建築設計監理の契約も終了しました。

毎週作業所会議を開き仕事についても話し合っていますが、新しい場所に移ったらこれまでの仕事+野菜を中心にした食堂をやりたいと思ひ様々な面で試行錯誤中です。

ここ一年程、野菜だけを使った食事を週に一回作り試食をしたり季節の野菜や果物を使っての加工品の試作を繰り返していますが、これからも詳細が決まるごとにお知らせしたいと思ひます。

試食会や加工品、食べてみようと思われる方ご連絡ください、毎週水曜日です!

また仕事以外に地域の人や作業所以外の障害を持つ人と関わられるような企画を行いたいと思ひそのためのスペースを設ける予定です。現在は設計段階で来年年明け過ぎに着工、県への指定申請、7月か8月に完成、新体系『就労継続支援B型』に移行の予定です。

NPO 法人なので国の補助など一切ない事、うまく基盤整備事業等が使いこなせず全て自己資金での土地の購入と建設となりました。しかしまだケアホーム、グループホーム、生活介護事業などつかいぼうにとっても地域の仲間にとっても必要なものがあり、多くの皆様からの資金のご協力をお願いしたいと思ひます。よろしくお願ひいたします。

バスに乗ろう

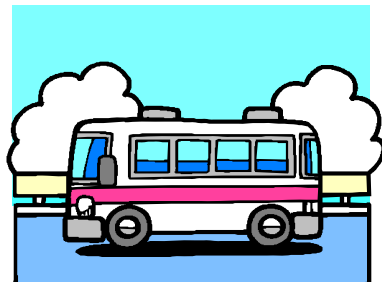
今年で最終年の三年目を迎えた「平成 22 年度市民活動支援事業」の「移動困難者の移動の確保に対する研究会」の今年度の取り組みの一つである車椅子での「バスの体験乗車」を行ないました。

「乗ること」に留まるようなものではなく、バスは障害者等移動困難者にとって地域での日常生活を送る場合に頼りになるものであるか、そうなるためにはバスはどう運行されると良いか、他にどんな条件を整えばよいのかを考えるための体験になると良い、またこの行動から地域の足に関心を持つ人を増やす事も目的であろうと思いました。

バスに乗ってまた帰ってくるという単純な企画です、またどうせなら乗り合いバスとコミュニティバスの両方を使って、出来れば乗り継いで、行けるところが良いと考え行き場所と路線を考えました。それには①確実に車椅子で乗れるバスが走っている路線である ②コミバスが走っていて連結点がある事 ③車椅子はバス一台に一人か二人しか乗れないので全員が移動するため一定の時間内に何台かが通るところ ④目的地は何人かの車椅子利用者が食事とトイレが出来る場所に絞っていくと、出発と到着は岐阜駅、目的地はマーサ 2 1 と柳ヶ瀬だけになりました。

総勢 20 名（内車椅子利用者 6 名と車椅子体験者 2 名が、オリエンテーションの後、二手に分かれてそれぞれが 3 グループになり時間差でバスに乗って目的地に向かいました。往復合わせて 16 回（乗り合いバス 12 回、コミバス 4 回）でバスに乗りましたが、一回ごとにチェックシートに記入し行動の終了後再び岐阜駅前広場に集まり一人ずつ感想を述べて終了しました。

車椅子の固定については、乗り合いバスは固定ベルトか輪留めのどちらかの人や両方の人、運転手によるばらつきがありました。固定の仕方も人によって異なり、バスの停車位置も必ずしも全車が定位置ではありませんでした。正確な運用はまだまだという感じですが、運転手さんの対応は良く「車椅子の人が乗ることがある事」が少し定着してきた感があります。それに引き換えコミバスは正直驚きました。備え付けのスロープの格納や設置は良かったのですが、乗り込む介助は介助者任せ、固定に関しては全くでした。車椅子の乗車位置について「ブレーキかけて、そこにつかまって、介助の人は押さえてって」のみでした。「固定はしないんですか」の声も耳に入らなかったのかそのまま運転席に戻られてしまいました。ベンチシートの一つに固定用の器具の入った袋がついていて、運転席の近くには輪留めもおいてありました。全



く指導がされていないのでしょうか。もう一台のコミバスに友人が乗る時も同じ対応でしたが、更に驚いたのは、私がバスの近くから乗り込みを見ていると運転手はもう一度スロープを出して私を乗せてくれようとしていました。感じの良い態度で「親切だなあ」と感動しかけてましたが、車内のスペースは狭く2台の車椅子は到底無理で、乗車台数は一台と決まっています。やはり指導がなされてないのかと改めて思いました。

詳しい報告は改めて後日行なう予定ですが、やはり「バスに乗る事」が中心の集約になりました。車椅子でのバスの乗車が少ない岐阜の現状でしょうか。そしてこの少なさの原因の一つとして、車椅子対応がまだ全車ではないこともありますが、自宅からバス停、バス停から目的地の移動手段が確保されていない点が大きいのではないかと思えます。コミバスがその部分を補完するものかという役割が違うようですが、先日岐阜市にこの企画の説明に言ったときにコミバスの担当の方が「いつも決まって利用があるのなら、コミバスのルートに入れることも出来る」と言われ、それが可能であれば、制限はあるものの通所や通院、買い物と日常的な外出の一部が確保出来てとても良いと思えます。

乗車率が低いところはキャブのような物での対応が良いのでは。車椅子が載りやすいし固定も簡単、ベンチシートへの切り替えも可能だし、乗り物の価格も安い、普通免許で乗れるので運転手の範囲が広がるし小回りも更に効く。時間帯により乗車率が異なるのなら時間帯により運行台数を減らせばよいと思いました。コミバスを廃止してワゴン車に切り替えた所も有ると聞きます。安全乗れてコミバス同士の乗り継ぎがよければ、少し遠くにも行けて、有効活用を期待したいです。この日は研究会以外に「聖徳学園大学 社会福祉サークル」「岐阜市 NPO 協働センター」をはじめつかいぼうの仲間たちの参加があり、貴重な体験が共有できてよかったです。

一緒に乗って下さった方達から感想をいただきました。

その 1 赤石幸久

この間はバス体験に参加してくれてありがとう。ご感想はいかがでしたか？

赤石君はつながり亭に通うのにいつも乗っているから、この間の感想と言うよりも、いつも使っていて思う事ってありますか。雨降りとかどう？

赤石 正直辛いです。また無愛想な人もたまに見えるので傷つく事がありますね。

吉田 そうだねえ。嫌な思いをして、二度と乗りたくないって言ってる人、他でも聞いたことあるよ。何でバスに乗るくらいでこんな思いせんといかんのか、あほくさいね。

雨はどんなへんが辛い。赤石君は手動車椅子を使っているね。

赤石 小雨か何かは、まだ良いけど大雨は乗ったりするのに濡れるからね。カッパ着てもあまり関係ないような気がします。

吉田 濡れるのは乗り降りの時、それとも移動中？

赤石 両方。乗り降りでも屋根があれば少し楽かな。

吉田 そうだね。車椅子では傘もさせんしね、カップを着たり脱いだりは平気？

赤石 あまり平気ではないです。

吉田 雨降りのバスは困るという事ですね。家からとバス停からが雨が降っても心配なく移動できるといいですね。そういう時は「ドア・ツー・ドア」の車かな。

それと、バスではいつも運転手さんは車椅子を固定してくれますか。

赤石 運転手さんの性格？次第。手順通りやる人、全くやらない人バラバラです。

吉田 やっぱりそうなんだね。大変危険だね。

車椅子を使っている別の友達からも同じこと聞いた事あるよ。何もやってくれなくて。では固定してくれない時どうしているの？バスの中では何かにつかまっているの？

赤石 棒につかまっている。それに、寝ないようにしている。貴重な睡眠時間なんだけど・・・。

吉田 それは、それは・・・！

たしかに、ゆれて眠るのはまた格別なのにね。決死の覚悟で乗らんといかんね。

でも、バスの中で大口開けてお休みはかっこよろしくないかもよ。家でゆっくり休んで下さい。

赤石 わかりました。

その2 いつもキャンプなどに参加してくれる大平敬史君です。

岐阜バスでマーサに行ったのは初めてでしたが、誰か介助してくれる人がいればどこへでも行けるのだなあと思いました。

その3 前田茂朗 岐阜聖徳学園大学 社会福祉サークル

私は今までに何回か車椅子を押ささせていただいたことがあるのですが、車椅子の方と一緒にバスに乗るのは初めての経験でした。

街を歩いていると「ノンステップバス」とデザインされたバスを何度か見かけます。そのようなバスに乗ったこともありましたが、しかしながら、具体的にどんな工夫がされているのかは今まで分からないままでした。今回、私はこの「工夫」を目の当たりにすることになりました。車椅子専用のスペース、極力段差を無くすための工夫...様々でしたが、どれも普段の生活からはわからないことでした。それに関わり、車椅子の方と一緒に歩いて見ると意外と見落としている危ない箇所、気をつけなければならない場所も分かってきます。これも、なかなか自分だけの目線ではわからないことでした。

今回のような体験は、私も気がつかないような街の「バリアフリー」の存在、そして違った目線から物事を見る必要性を痛感させられます。思い返すと、改めて貴重な活動をさせていただけたと思います。

近況報告 其の二

今日は施設に暮らす仲間からです。

つかいぼうのみなさんお久しぶりですが、お元気ですか。私も元気で頑張っています。私が暮らしている施設は、利用者本位とはほど遠い自立支援の新体系に今年度から切り替わり、日課も日中活動が取り入れられ、入浴が一日入浴から半日入浴に変わり、ほとんどの曜日が入浴日になりました。それも私たち利用者に相談もなしに上層部の職員だけで勝手に決めて、私たちの意見は、ちっとも聞いてもらえないのです。私の日中活動としては、ネット手芸でポストを作ったり、電動車椅子で散歩したりして楽しんでいます。

近況報告から少しメールでおしゃべりが続きました。対談風にまとめます。

吉田 原稿ありがとうございます。施設は、移行しても、理想とする暮らしからは程遠いのですか。もうちょっとお伺いしていいですか。

Aさん 了解です。

吉田 新体系に移行して生活は前より充実してきましたか。

Aさん 新体系に移行して前より利用者は、5年位前までは自由に出来たことが、色んな事で制限されています。例えば、園の行事で、出掛ける外出先や買物で何か食べたい物や買いたい物があっても買ってきてもらえないのです。利用者は小さくなってしまっています。

吉田 新体系になって何で制限が出来てしまったんでしょう。

Aさん 施設では、知的障害の人達が多くなって、何をしても危険だからと言ってやらせてもらえないという意味での制限です。ケアプランの取り組みも利用者には、ある程度決まってから言ったりするのです。施設の職員は、利用者一人一人の事を把握し、信頼して欲しいと思っています。

吉田 新体系って、「生活介護」ですね。「生活介護」そのものの問題というより、三障害合同の為に出てきた事ですか。

ほんとは三障害一緒にいる事が問題ではなく、それぞれの障害にちゃんと対応できる体制がついてこない法律の問題ですね。

地域移行と言われているけど、そんな風吹いていますか。

Aさん 地域移行の話はありますが、今の施設は身体障害者というより知的障害者が多くなったし、重度化に伴い、そういう声も少なくなっています。

吉田 これからの夢は。

Aさん これからの夢は、職員と利用者がお互いに心のケアをしながらコミュニケーションをして欲しいと思っています。

吉田 他の施設でも職員と利用者の心のあるコミュニケーションが無いと言っているのを聞いたことがあります。

「昔は良かった・・・」っていうのか、それとも何かが、変わっていつているのかな。職員は障害者を仕事の対象としか見なくなってしまったのか……。新体系に合わせるために、忙しくてコミュニケーションをとる時間がないのか、もっと他の理由があるのか、何なのでしょうね。

「第25回 みんなでやろまい障害者・健常者の大交流キャンプ」

7月31日～8月1日、関市板取のすぎのこキャンプ場で恒例の大交流キャンプを行いました。今年は2年ぶりに一泊二日での開催ということで、実行委員会のメンバーもはりきって当日に臨みました。

先に現地入りしたスタッフが準備をしている時にぱらついていた小雨も、参加者が揃う頃にはすっかりあがり、雲の切れ間からお日様が顔を覗かせるまざまざのコンディションでの開催となりました。



紙皿で作ったフリスビーで遊びました。

今年初めてのイベントでした、はじめは遠巻きだったギャラリーは時間がたつにつれて輪が縮まり、最後の方は盛り上がっていました。

今年は夏野菜カレーを作りました。ニンジン、カボチャ、インゲン、おナス……。各グループがそれぞれ个性的に作っていました。どうやって作ってもおいしいのがカレーのいいところでしょうか。





今年も聖徳学園の学生さんたちが、キャンプファイヤーを楽しく盛り上げてくれました。絶好調デス！



スイカ割りも楽しかったね！
でも…、ちょっと方向が・・・

25回目となる今年のキャンプには、つかいぼうの仲間や岐阜市周辺からはたまた県外、遠い市町にお住まいの障害のある仲間、学生さんたちなど約60名の方々が参加し、障害のある人もない人も一緒に、自然の中で楽しいひと時を過ごしました。ご参加いただきました皆さん、準備などを手伝ってくださった皆さん、どうもありがとうございました。

私たちがこの大交流キャンプを開催するようになってから四半世紀以上が経過し、始めた頃とは社会も参加者の顔ぶれもずいぶん変わりました。そんな中、この取り組みのあり方について見直した方が良い点も出てきました。この取り組みがより良いものとなるよう、みんなで考えていきたいと思えます。

それはともかく、来年に向けて、早々と場所だけ押さえてきました。次回は来年8月27日(土)～28日(日)、今年と同じすぎのこキャンプ場で開催の予定です。皆さんとまたお会いできるのを楽しみにしています。

やさしいちきゅうものがたり

*** カレンダー販売のご協力をお願いします ***

いつも、ご支援・ご協力、ありがとうございます。

永遠に涼しくはならないかと思えた長い長い夏をやっと越えたのにやっぱり今年も短かそう。

それでもつかいぼうとしては今年新しく建設する作業所の場所も決まり、今設計を詰めている。新しい仕事に向けての動きもほんの少しずつじっくり考え、努力を続けてみんなの仕事と給料を増やしたい。新しい場と仕事から人の交わりがどんどん広がってほしいと願っています。

今年は悲しいニュースが多い。終わらない戦争や飢えや病氣、貧困もそうだけれど、虐待などの出来事は人や家族や地域とそれぞれのつながりが軋んでいるように思えます。

障害者も共に生きる事の出来る社会への取り組みは、人に優しくつながりを大切にした社会への再生の取り組みでないといけなと思います。方法や形が見だし難いのですが、心がけて行こうと思います。

とてもきれいで「だれも孤独じゃないよ」と語りかけてくれる絵です。あなたのおそばにどうぞ。

またお知り合いへのプレゼントにも最適です。

一部1,000円（送料 無料） カラー6枚つづり 縦 62 cm × 横 30 cm



氏名		購入本数	
住所			
受渡方法	Tel () -		
入金方法	郵送 ・ 渡し(場所・人…) ・ その他()		
	手渡し(へ) ・ 振込み ・ 現金書留		

振込み先 十六銀行 岐阜中央支店 (普)1382822

特定非営利活動法人 障害者自立センターつかいぼう 理事長 吉田朱美

第23回 大カルタ取り大会

●時：2011年3月27日（日）

●場所：岐阜メモリアルセンター ふれ愛ドーム

1メートル四方の大きな絵札を車椅子に乗って取る、恒例の大カルタ取り大会を来年3月27日（日）に岐阜市の岐阜メモリアルセンターで開催します。皆さん、ぜひご参加ください。詳しいことが決まったら、またあらためてご案内します。

また、カルタには欠かせない歌（カルタの句）も募集しますので、皆さん日頃の生活の様子や思ったこと・感じたことなどを作品にして、事務局までどしどしお寄せください。ご応募、お待ちしております！

● 第1回実行委員会11月13日 土曜日 つっかいぼう事務所にて開催、お待ちしております。

ホームページが出来ました！

以前から作るぞ作るぞと言いながら、なかなか形にならなくて公開できずにいました私たちのホームページが、この度ついに完成しました。管理人の趣味、いや能力の限界で、まるでビジネス文書のように地味な（良く言えばシンプルな）ページですが、お時間のある時にアクセスしていただければ幸いです。また、お知り合いの方などに「つっかいぼうってこんな所ですよ」って紹介する時にもぜひご活用ください。

インターネットブラウザのアドレス欄に以下の URL を入力するか、「つっかいぼう」というキーワードで検索してみてください（主要な検索エンジンで上位 10 件中表示されます）。パソコン向けに作っていますが、一応携帯でも見る事ができます。

<http://www.ip.mirai.ne.jp/~tsukkaibo/>

編集後記

永遠に涼しくならないかと思うほど暑い長い夏でした。みなさんお体の具合はいかがでしたか。今年は夏バテも遅く来るとか聞きます。気をつけて下さいね。涼しくなって周りの事が色々と感じてきました。暑さで気が落ちていたようです。支援法は制度改革推進会議が進む中、改正案が突然提出され、なんとか廃案になりました。何を信じて生きとりゃええんじゃという裏切られた気持ちと怒りのみでした。しかし野党は依然提出を諦めていないとか、新法成立までのロードマップは示されたがそれなりの期間はあり即対応が必要な事項もあるものの、本当に「その間」となるのか、改正案の内容自体どうなのか、それ以前に何で突然提出なのか…。「私たち抜きに私たちの事を決めないで」という当たり前の主張はあまりにも軽く受け止められていたと言う事実が悲しいです。「政治」という駆け引きは大事かもしれないけど不快。腹の探り合いでなくて話し合いが必要なのではないですか。政権を担って日も浅いので…は状況が許さないでしょう。（文責 吉田）